

言葉の由来と成立 「猫」と「ねこ」から

An origin and composition of words—from "a cat" and "neko"—

学籍番号：201321650

氏名：平野 杏奈

Anna HIRANO

「言葉」とは、物の名称及びそれに類するものである。だが、言葉は、なぜそのような呼ばれているのだろうか。何を元にして、どのようにしてそのように呼ばれるようになったのだろうか。だが、言葉の由来や成立において、人々の印象やイメージが検討材料とされていることはあまりない。言葉は、これらを与える影響をもって、どのような由来を持ち、どのように成立しているのであろうかを、本研究を通して、考察・検討していく。

最初に、本研究において、研究対象として、『日本国語大辞典』、『広辞苑』、『古事類苑』、『大漢和辞典』の4つの事典・辞書から「猫」と「ねこ」の項目を抜粋した。ここで分析対象として、猫を取り上げるのは、漢字と音の両方の言葉が存在することから、最初は音から始まり、それが文字へと変化する語呂合わせの可能性も考えられ、これらより、言葉の成立と由来に何かしらの経緯を見いだせるのではないかということから、この研究において、「猫」と「ねこ」に関する言葉を取り上げた。さらに、民俗伝説や伝承には、少なからずその時代の人々のイメージが反映されている可能性があると考え、日本における言葉へのイメージ抽出の為、一般の人々、中でも地方の人々の民俗伝説・伝承を収集していることに評価があった『定本 柳田國男集』を使用した。

結果、言葉は、由来のイメージの変化によって生まれていくということ、すなわち由来のイメージ変化による必要性から言葉が生まれているということがわかった。同時期であっても、由来に別イメージが生まれれば、言葉もできるのである。よって、言葉において、由来に対する人々のイメージが大変重要であるということがわかったのだ。

さらに、言葉は、由来と言葉として表現する対象の関係性によって成立しているということがわかった。「猫」や「ねこ」に関する言葉においては、猫と遊女など、両者の関係性がなければ成立することができなかつたはずである。また、「猫」や「ねこ」に関する言葉において、成り立ちにおいては、言葉として表現する対象へのイメージもかかわってくる。その対象へのイメージと猫のイメージとが重なり合うことで、言葉が成り立つことも見られた。よって、言葉の成立には、由来と言葉として表現する対象の関係性及び互いのイメージの合致が大変重要であるということがわかった。

研究指導教員：白井 哲哉

副研究指導教員：綿抜 豊昭